

海第十二号の作品について

海のホームページには、「ニュース」等のコラムを設け、海の作品に対していただいた批評や感想等の内容の要旨を掲載し、同人個々の参考になるようにしています。第十二号（通巻第七十九号）の作品に対しお寄せいただいた感想等の一部（抄）を、左記に掲載させていただきます。御意見等をいただいた各位（お名前は略）に、心から感謝申し上げます。

◇エッセイの部

- 横尾和博特別寄稿について
- 「妄想と文学」『海』に寄せた
- ・さすがにプロの作品である。
- ・意味深い小論であり、含蓄がある。

上水敬由作品について

- 「ルガー」
 - ・文章に緊張感、冴えがある。
 - ・過不足がない。
- 小山多由美作品について
- 「十七文字の灯」
 - ・父を思いやる気持ちに羨ましさを感じる。

和田奈良子作品について

- 「今も青春」
- ・共感する。文章は今も生きている。

◇詩の部

- 笹原由理作品について
- 「挑戦ほか」
- ・命の原点が、息遣いとともに発語され、見えない背景までも想像させる。
- ・細やかな感性には、読む者をホッとさせるものがある。

◇詩と画の部

- 鳥井まみ作品について
- 「話つ花（三）」
- ・軽妙洒脱に詩を料理していて、楽しい。

◇翻訳の部

- 牧草 泉作品について
- ・読みやすい内容に仕上がっている。
- ・次回が楽しみである。

◇評論の部

- 原千里作品について
- 「廣瀬淡窓とその世界 月旦評教育の功罪」
- ・成果主義の危うさと、その状況を同様に感じる。

◇小説の部

- 高岡啓次郎作品について
- 「優しい毒」「断崖」
- ・ミステリアスで筆致が早く、一気に読ませる。
- ・物語の世界を堪能させてくれる。

牧草 泉作品について

- 「ある老人の生活風景」「吉瀬美智子の秘密？」
- ・滑稽話に仕上げた軽やかさがいい。

有森信二作品について

- 「白い翳」「喝采」
- ・テーマに負の驚きを感じる。
- ・リアリティは感じるが、丁寧な推敲を心掛けた方がよい。
- ・嘉村磯多の幼年期の事績に重なる。

◇海の全体について

- ・同一作者による複数の作品が掲載されゆえに相殺し合い、印象が薄くなる。
- ・「書き放し」とも、とられかねない。
- ・一考が必要ではないか。
- ・誌の姿勢として、詩を大事にすべきであらう。

（有森まとめ）